

平成30年度 練馬区立石神井西中学校 学校評価報告書

練馬区立石神井西中学校

校長 松丸晴美

1 自己評価結果

◇本校では、今年度の教育活動や目指す学校・生徒・保護者の姿、今年度の学校経営重点目標に沿って、生徒 19 項目、保護者 22 項目、教員 26 項目、地域関係者 11 項目について、(ア:とてもそう思う、イ:どちらかといえばそう思う、ウ:どちらかといえばそう思わない、エ:そう思わない) の4段階で12月～1月に評価を行った。結果を集計し、ア・イの回答を肯定的評価と捉え肯定的評価の割合に注目し

- ・80%以上の項目を評価 A (目標が充分達成できている)
- ・80%未満55%以上の項目を評価 B (概ね達成できている)
- ・55%未満40%以上の項目を評価 C (達成がやや不十分である)
- ・40%未満の項目を評価 D (達成が不十分である) として表記した。

評価結果を学校関係者評価委員会において説明し意見を聴取するとともに校内企画調整委員会、各分掌・学年部会で分析を行い、評価 A・B の項目については次年度も継続した取り組みを進め、評価 C・D の項目については課題と捉え、具体的な改善策を策定して目標達成に向けて取り組んでいくことを確認した。なお、昨年度と評価が変わっている場合は昨年度の評価を () 内に記載した。

評価項目	教員	生徒	保護者	地域
1. 思いやりの心や相手の身になって考え、行動できること。(いじめをしない。させない)	B (A)	A	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・教員の肯定的評価が他と比較して低いのは、先生方がよく見てくれていることの現れである。次年度も「特別の教科 道徳」の授業や学校の教育活動全体を通して、「思いやりの心」を育成し、いじめの根絶に努めていく。				
2. 場に応じた言葉遣いや返事ができること。	B (A)	A	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・設問1と同様の傾向である。中学1年生はまだ大人としての対応がとれていないので、時と場に応じて繰り返し指導をしていく。				
3. 家庭学習の習慣を形成すること。	C (B)	B	C (B)	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・家庭学習習慣は中学生までに確立されていてほしい。小学校のうちに習慣付けさせたいし、また学校だけに任せず家庭でも習慣付けをしてほしい。3時間もスマホをやっている家庭で勉強ができるようになるわけがない。学校では学年や学級で家庭学習週間などの取組を来年度も重点目標として実施していく。				
4. あいさつができること。→声に出す。無号令でおじぎ、授業始終の礼。	B	A	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・設問1と同様の傾向である。生徒は挨拶について意識して行っている。これからも生徒会や部活動を通して挨拶をする雰囲気を作っていく。地域からは挨拶ができていると評価を得ている。				
5. バッチを毎日着用すること。	A (B)	A	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・教員の評価は A 評価となっているが、「どちらかといえばそう思う」の割合が高かった。バッチの着用率は飛躍的に伸び、課題が改善している。教員が朝礼時に声かけをした成果である。これからも保護者にも呼びかけ、家庭と連携を図りながら進めていく。				
6. 式服・体育着について、きちんとした着こなしができること。	A	A	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・設問5と同様の傾向である。四者とも肯定的な意見が高い。私服と式服の棲み分けがきちんとできている。教員の指導と声かけの成果である。式服マニュアルも作成され、着こなしを可視化された。				

7. 時間を守ること。→授業、朝礼、集合。	A	A	A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・設問5と同様の傾向である。授業開始時刻や朝礼の開始時刻を守るように指導し、遅刻者の数が大幅に減った。冬場はぎりぎりに登校してくる生徒もいるので引き続き声かけが必要である。				
8. 話を聞く態度を素早く整えること。→私語をせず待つ。無言で話を聞く。	B	B	B	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・全校で集まる機会では、非常に良い状態になっている。無言の状態を維持できない一部の生徒への指導が課題である。上級生が模範を示せるようになってきた。				
9. 障害者スポーツの体験・理解を深めること。	A	A	A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・教員の肯定感が高い一方、保護者の評価はやや低い。生徒数が多く、全員が体験までできず、見学で終わっている生徒がいるためと思われる。この点の改善は困難である。				
10. 体力（投力・持久力）の向上を図ること。	A	B	B	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・設問9と同様の傾向である。保健体育の授業を通じ、年間を通して投力、持久力の向上を図ってきた。運動部活動に所属していない生徒の底上げが課題である。				
11. 英語でのコミュニケーション意欲を高めること。→ALTなどの活用。実践的な英語活用能力を向上させること。	A	B	B	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・設問9と同様の傾向である。TGGでの体験学習、英語ボランティア講座、アメリカ大使館外交官による特別授業、ALTの行事への参加などを通じた取組ができた。				
12. 生徒会活動・学校行事などを通して、自主性や責任感を伸長すること。	A	B	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・設問9と同様の傾向である。今年度も生徒会役員会を始め、各委員会を活発に活動させることができた。学校行事や生徒会活動に、生徒は責任をもって主体的に取り組み、また、協力しあうことができた。				
13. 青少年赤十字活動を理解し、ボランティア活動・体験などを行い、社会に貢献しようとする意欲や態度を醸成すること。	A	B	B	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・設問9と同様の傾向である。生徒の国際社会に対する関心や社会貢献への意欲が高まってきており、ボランティア活動参加希望者が増えている。JRC委員会の活動にも非常に協力的な生徒が多い。				
14. ルールやマナーを守ろうとする心や態度を育てること。	A	A	A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・四者とも肯定的な意見の割合が高い。規律ある学校生活ができている。特に校外学習や宿泊行事などで、年々生徒の規範意識が大きく改善している。職員室への出入り等も折り目正しい態度が醸成されている。				
15. 補充指導や基礎・基本の確実な定着を図るための指導を行うこと。	B	A	B	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・教員や保護者よりも生徒自身のほうが、基礎・基本の定着を図る指導が行われていると感じている割合が高い。次年度も重点目標として各教科で工夫して、補充指導を充実させていく。				
16. 思考力・判断力・表現力を高める授業を行うこと。	A	A	A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・設問15と同様な傾向にある。教員の自己申告面接で、重点目標として具体策を立てさせ授業改善に取り組んだ。				

次年度も生徒の授業アンケートを活用しながらさら授業改善に取り組んでいく。				
17. オリンピック・パラリンピック学習を推進し、日本及び他国の理解、人・文化・伝統等を尊重する態度や心を育成すること。	A (一)	A (B)	A (B)	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・設問9と同様の傾向にある。次年度は、豊かな国際感覚の醸成、ボランティアマインドの育成に関わる教育活動の中で、2020以後のレガシーにつながる取組を精査していく。				
18. ホームページや学年だより等による広報を適切に行うこと。	A		A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・三者とも肯定的な意見が多いが、とりわけ教員自身の肯定感が高い。学校だよりは毎月発行している。学校ホームページも昨年度の年間ヒット数141,433を5,000以上超えることができた。今後も、保護者だけではなく地域の方にもわかりやすいホームページを作っていく。				
19. 地域の祭礼等のパトロールに参加すること。	A		A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・三者ともに肯定的な意見が多い。教員の働き方改革を鑑み、次年度以降、無理のない形で継続していく。				
20. ユニバーサルデザインに配慮した校内掲示物や教室環境の整備を行うこと。	A		A	A
<評価委員会等の分析・改善策等> ・三者ともに肯定的な意見が多い。次年度は、特別支援教室が開設することもあり、さらにユニバーサルデザインに配慮した校内や学習の環境を整えていく。				
21. 服務事故の防止、個人情報の管理を徹底する。	A			
<評価委員会等の分析・改善策等> ・これからも全教職員が服務事故の防止に努めて行ってほしい。				
22. 生徒理解と適切な支援、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図ること。	A	A (B)	A	
<評価委員会等の分析・改善策等> ・三者ともに肯定的評価の割合が多いが、教員の自己評価と比較すると保護者の評価が低いので、保護者の悩みの解決までは到っていないケースがあると思われる。不登校の要因は、友人関係よりも情緒面に起因するケースが多くなっているので、今後も子供家庭支援センターや児童相談所、医療機関等と連携を深めていく。				
23. 「道徳」の研究を推進すること。	A			
<評価委員会等の分析・改善策等> ・「石西メソッド」という授業を改善する具体的な指針を開発し、全教員で実施したことで、生徒がテーマについて考え、活発に議論するようになり、「考える→人に伝える→人の意見を聞く」という良いサイクルができた。教員の意識も変わった。次年度は評価についてさらに研究を推しすすめ、他校へも広く研究の成果を公表していく。				
24. 小中一貫教育研究グループの取組を通して小学校への理解を深め、小中9年間の接続を意識した生徒指導・学習指導を実施すること。	B			
<評価委員会等の分析・改善策等> ・小学生の中学校体験など新しい試みを行い、小中学校ともに評価が高かった。また、小中の教員で話す場があり、宿題、登下校、生活ルールなど小中の意識の違いを話し合えるのは良い。次年度も連携小学校との一貫教育を推進していく。				
25. 自ら研鑽し、専門性の向上・教師としての資質向上を図ること。	B			
<評価委員会等の分析・改善策等> ・研修をしたいと思っても、多忙な業務のため、研修、授業参観のための出張ができない現状がある。今後も、校内のOJTをさらに充実させて、互いに高め合う職場風土の醸成に努めていく。				

2 学校経営計画（基本方針及び今年度の重点目標）に対する自己評価

◇今年度の学校経営計画に示した7項目の基本方針および今年度の取組の重点に対する職務行動や生徒の自己評価や観察による達成状況を各項目（ア：十分に達成できた イ：概ね達成できた ウ：あまり達成できなかった エ：全く達成できなかった）の4段階で、12月に教職員が評価した。結果を集計し、ア・イの回答を肯定的評価と捉え、肯定的評価の割合に注目し下記のとおりA～Dで評価した。

- ・80%以上の項目を評価A（目標が充分達成できている）
- ・80%未満55%以上の項目を評価B（概ね達成できている）
- ・55%未満40%以上の項目を評価C（達成がやや不十分である）
- ・40%未満の項目を評価D（達成が不十分である）

評価結果C・Dの項目については、達成状況が不十分として、次年度は、各分掌主任・学年主任、特別委員会を中心に具体的な改善策を策定させ、取り組んでいく。なお、昨年度と標語が変わっている項目は、昨年度の評価を（ ）内に記載した。

学校経営の基本となる7本の柱（グランドデザイン）		
A. 豊かな心の醸成	E. 心身の健康と体力の増進	
B. 確かな学力の定着・向上	F. 国際人となる資質の育成	
C. 自立に向けたキャリアの教育の推進	G. 安全・安心で、保護者・地域に信頼される	
D. 自己指導揚力の伸長	学校づくり	
主な柱	項 目	評 価
A	① 思いやりの心や相手の身になって考え行動できる力を高めいじめを根絶する。	B (A)
	②ルールやマナーを守ろうとする心や態度を育てる	A
	③場に応じた言葉遣いや返事ができる	B (A)
	◇①・③の項目において、生徒の肯定的評価が90%を超えているのに対し、教師の肯定的評価が目標値を下回っている。特に、「思いやりの心や相手の身になって考え、行動できる」という項目は、道徳科の授業においても一年間特に重点として取り組んだ。生徒の肯定的な評価が高くなった要因のひとつと考える。一方で、それが行動として現れるところまでにはいたっていないという理由で教師の肯定的評価が低いと考える。道徳的な実践力が高まるよう、今後も道徳科の授業等で継続的に指導をしていくとともに、教師がその時を逃さず生徒に伝えるよう努める。	
B	①補充指導・基礎・基本の確実な定着	B
	②思考力・判断力・表現力を高める授業を行う	A (B)
	③家庭学習習慣を形成する（テスト前の学習に重点）	C (B)
	◇③【分析】教師、生徒、保護者いずれも設定目標値を下回る結果であった。放課後、学習塾を含めて何かしらの習い事に通う生徒が多いことから、家庭で全く何も学習していない生徒の割合は低いと考えられる。勉強について思うこととして「上手な勉強のしかたがわからない。」と感じている生徒が多い。家庭学習習慣を形成するためには、保護者の協力も必要である。【改善策】学習する場の提供として、放課後のステップアップ教室の充実を図る。1学期末の三者面談において、生徒・保護者から家庭学習の状況や悩みを聞き、担任から学習方法についてのアドバイスを。学校全体で「家庭学習週間」を設け、生徒の家庭学習に向かう意識を高めさせる。	
D	① あいさつができる（声に出す。無号令でおじぎ、授業始終の礼）	B
	②バッチを毎日着用する	A (B)
	③式服・体育着について、きちんとした着こなしができる	A
	④時間を守る（授業・朝礼・集合）	A
	⑤話を聞く態度を素早く整える（私語をせず待つ。無言で話を聞く）	B
	◇あいさつに関する項目は、教師・生徒共に目標値には近いものの、目標値に達していない。本校で毎年課題としてあがる「あいさつ」であるが、少しずつ肯定的な数値も上がっている。面識のある人にはあいさつができるが、外部からの来校者などには消極的なのが課題である。最も数値の低い「話を聞く態度」については、全体的にはできているが、一部の生徒に課題が見られる。「あいさつ」は、生徒会によるあいさつ運動や、日常の学校生活で教員が範を示すことで、	

	活発にあいさつすることを促す。「話を聞く態度」については、授業や学活など、まずは教室 内を基本としてその姿勢を育む。また、学年集会の場をその姿勢を育むいい機会ととらえ、話を 聞く態度を養う。	
F	オリンピック・パラリンピック学習を推進し、日本及び他国の理解、人・ 文化・伝統等を尊重する態度や心を育成する	A
	◇教育課程の中にもしっかりと位置付けられ、計画的に取り組んでいる。都からもアワード校とし て2年連続で表彰されており、次年度もこれまで通り実施していく。	
E	①障害者スポーツの体験・理解を深める	A (B)
	②体力（投力・持久力）の向上を図る	A (B)
	◇①オリパラの取り組みとして、1年生でボッチャの体験学習を行った。授業の中で、2年生が ブラインドサッカーの取り組みを行った。②授業の中で各学年持久走を行い、持久力を高めるこ とができた。ベースボール型やアルティメットの授業を通して、投力を高めることができた。	
F	①ALTや校外学習 (TGG) 等を活用した英語でのコミュニケーション意欲を 高める	A (—)
	②実践的な英語活用能力を向上させる	A (C)
	◇ALTを生徒の体験活動や給食時間に一生に参加させることで生徒とのコミュニケーションを図 る機会を設定できた。TGGでの体験学習は実生活で英語を使う体験として良い機会となった。しか し、校外学習で取り入れるには遠方のため、次年度は夏期休業中に希望者を募って実施する。	
D	①生徒会活動・学校行事などを通して、自主性や責任感を伸長する	A
	②青少年赤十字活動を理解し、ボランティア活動・体験などを行い、社会 に貢献しようとする意欲や態度を醸成する	A (B)
	◇生徒会活動については、役員会を始め、各種専門委員会、学校行事の実行委員会など、生徒が 主体的に活動し、生徒会朝礼などで活動の報告や啓発に努めている。JRC委員会も志をもった生徒 が多く、ボランティア体験や社会貢献活動の紹介などの中心となって活動できている。	
G	①生徒理解と適切な支援、SCや関係機関との連携	A
	②校内掲示物・教室環境整備	A (—)
	◇①欠席が長期化するのを防ぐよう、現在実施している「ふれあいアンケート」や「いじめアン ケート」を活用し、情報を教師間で共有し、必要に応じて面談などを実施している。特に子ども 家庭支援センターやSSW rなどと密に連携し、成果があがっている。 ②掲示物や環境整備は、研究発表会があったので、特に留意して実行することができた。次年度 も教室内の掲示物が整備されているか、チェックリストなどを用意し、生徒の委員会活動に取り 入れ、定期的に確認できるようにする。	
教職員	①ホームページや学年だより等による広報を適切に行う	A
	②地域の祭礼等のパトロールに参加する	A
	③サービス事故の徹底防止と個人情報管理徹底	A
	④「道徳」の研究を推進し、成果を広く公開する	A
	⑤小中一貫教育研究グループの取組を通して小学校への理解を深め、小中 9年間の接続を意識した生徒指導・学習指導を実施する	B
	⑥自ら研鑽し、専門性の向上・教師としての資質向上を図る	B
	◇①ホームページの更新を心がけ、ヒット数が昨年度を越えることができた。学校だより、学年 だよりも充実した内容を発行することができた。②地域祭礼等のパトロールへの参加を教員に呼 びかけ PTA 生活委員と共同で実施することができた。③サービス事故防止のための研修及び声かけを 行っている。未然防止に努めるよう今後とも徹底を図る。④道徳教育推進教師を研究主任に据 え、研究推進委員会を中心に3つの分科会で研究を推しすすめた。教師の授業が変わり、生徒の 話し合い活動も活発化した。⑤小中一貫の取組として中学校での授業体験や部活動見学、海外派 遣報告会を中学校に来てもらって聞かせるなど工夫をこらして実施できた。⑥業務内容の整理を 行い、研修に出張しやすい校内体制作りを推しすすめる。	

3 評価結果の公表等

- ◇評価結果については、3月20日(水)に保護者会を開き、学校だより(3月号)を資料として、学校全体評価結果と考察を校長から各学年の評価結果の概要と考察を学年主任が口頭で説明する。
- ◇ホームページで、学校評価結果(3月学校だより)を公開する。
- ◇地域関係者には、2月の学校評議員会で事前に送付しておいた結果についての説明を行い、意見を聴取した。加えて3月学校だよりの配付をもって公表に代えている。

4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

今年度の重点目標の中で達成状況が十分と言えなかった項目と新たな教育課題として設定した項目を入れて教育課程を編成し、次の点を特に重点として取り組んでいく。

◇学習指導について

- ①石西メソッドを生かした道徳授業の実施。研究推進委員会を中心に評価の方法等について検討し実践に生かす。生徒が道徳的価値について理解し、実践する態度を育てる。
- ②思考力・判断力・表現力を高めるために、授業内容や教材、指導方法等を工夫する。
- ③適切な宿題と課題を提示し、各学年の実態に応じ家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- ④補充指導等を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図る。

◇生活指導について

- ①話を聞く態度を素早くつくり維持する、声に出して挨拶できる、服装を整える(式服の着こなし)、バッチを毎日着用する、時間を守るなどの基本的な生活習慣の定着と規律ある集団行動ができる生徒を育てていく。
- ②思いやりの心や相手の身になって考え、行動できる力を高め、いじめの根絶に努める。
- ③場に応じた言葉づかいや返事がきちんとできるようにする。

◇特別な教育支援について

- ①SCやSSW r、関係諸機関と連携し、不登校生徒の出現率の減少を図る。
- ②特別支援教室の設置に伴い、巡回指導教員、特別教室専門員との望ましい連絡・連携を実践を通して思考し、実施する。

◇校訓の「共生」を具現化するため、特にオリンピック・パラリンピック教育には「国際理解教育」と「障害者・高齢者理解」に力を入れ、特色ある教育活動を実施する。

- ①オリンピック・パラリンピックの精神、歴史や意義の理解、興味・関心向上。オリンピックやパラリンピアンを招いた講演会を行う。
- ②国際コンシェルジュを活用した、留学生・JICA派遣者などを招き、他国の伝統・文化の理解、他国の学生等との交流活動を進める。
- ③障害者スポーツの体験や理解のための学習を行う。
- ④環境保全への意識向上とユニバーサルデザインの視点にたった校内環境整備を進める。
- ⑤小中で連携した体力向上の取組(投力・持久力を中心に)を継続して行う。
- ⑥ALT(外国人指導助手)を活用し、英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲や能力の向上。習熟度別少人数授業の実施(1・2年生の英語)。学校行事と関連させた英語でのインタビュー活動。夏季休業中のTGG(希望者)での校外学習を行う。
- ⑦総合的な学習の時間での認知症に関する学習や高齢者福祉施設訪問(1年生)
- ⑧青少年赤十字(JRC)委員会を核にした国際理解に関する活動とボランティア活動。吹奏楽・将棋・ハンドメイド部などによる地域でのボランティア活動を継続する。

◇その他の特色ある教育活動

- ①学力向上支援講師を活用したきめ細かい指導(1年数学ティームティーチング)
- ②理科・数学の教科と連携した施設での校外学習(1・2年生)
- ③地域人材を活用した放課後のステップアップ教室(数学と英語、英会話等の地域未来塾)(火曜と木曜、水曜)や英検・漢検を実施する。